

海岸地層露頭の一部が海の波によって徐々に浸食されて、洞窟状になった地形を「海食洞」または「波食洞」といいます。海岸の崖というのは、もともと波によって削られた「海食崖」が多いですが、その崖の中の一部に断層や浸食されやすい層理が存在すると、周囲の岩石よりもより速く浸食が進み、洞窟状の地形になるのです。江の島の「岩屋」という海食洞が有名です。そのほかにも日本各地の海岸断崖に海食洞は存在し、場所によっては小型の遊覧船で内部まで入れるものもあります。

海上に「岬」のように突き出した断崖の場合、浸食が両側から進み、結果的に海食洞同士がつながって、「トンネル状」になった地形も存在します。これは「洞門」と呼ばれ、その特異な形状から「めがね岩」とか「くぐり岩」などの別称でも呼ばれています。

城ヶ島（神奈川県三浦市）にも「馬の背洞門」という有名な洞門があります。約 1200 万年前の「三浦層群」という地層の堆積岩を、長い年月の間に波が穴をあけ、このようなアーチ状の地形になりました。以前はアーチの上部にも行けたのですが、見ての通り崩落の危機にあるため、現在は上部は立入禁止になっています。アーチの上部は厚さが 2 メートル弱しかなく、私が一人で通っただけでも、すぐに崩落しそうです。実は、関東大震災の隆起前は、洞門の中を小舟で通過できたそうです。しかし、次に大きな地震がくれば、能登の「窓岩」のように、崩落してしまうでしょう。

